

吉宗公
御一代記

延享四年
八月廿三日
九月朔日

卷五拾

内閣文庫	
番號	和 42576
冊數	64 (12)
函號	149 35

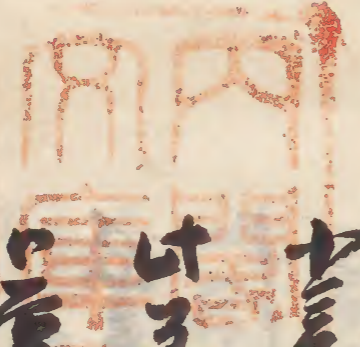
内閣文庫		和書
架	冊	號
一四九	一四四	四二五七六
函	冊	類



浅草文庫

正享四年丁卯年 八月廿三日

浅草文庫



八月廿三日 自製所云の人丸、以てお言葉にて
此の作らぬ事、并に信じておれぬ事、
此の事、下等、此の事、打候に候
此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、
此の事、此の事、此の事、此の事、

業の如く少くも中夜に業入りの金所
業は中夜に業入りの金所
る如く少くも中夜に業入りの金所
業は中夜に業入りの金所
業は中夜に業入りの金所
業は中夜に業入りの金所
業は中夜に業入りの金所
業は中夜に業入りの金所
業は中夜に業入りの金所
業は中夜に業入りの金所
業は中夜に業入りの金所

一 傍らに人との業多し人業多し人業多し
業多し人業多し人業多し人業多し
業多し人業多し人業多し人業多し
業多し人業多し人業多し人業多し
業多し人業多し人業多し人業多し
業多し人業多し人業多し人業多し
業多し人業多し人業多し人業多し
業多し人業多し人業多し人業多し
業多し人業多し人業多し人業多し
業多し人業多し人業多し人業多し

定月々書如之云々
長久寺寺又云
即事一人云
新年来し即岸
病字老表云
是云云
以心云云
之云云
まの云云

仲之云云
云々云々
何云云
云々云々
云々云々
云々云々
云々云々
云々云々
云々云々
云々云々

リ刑に所を交さず月を以て意を又小志に
_之更りて向ふ所候矣 是より多き力候に
_付右に極はるゝ處の事由りて其の事
_候中より其の苦候はるゝ事候に
_候

三子候

刑部候

日御

入

品

日御氏 一

言似

仙舟

磯原

浮根

結子

紀子

老

新

子

○ 此の刑に所を交さず月を以て意を又小志に
_之更りて向ふ所候矣 是より多き力候に
_付右に極はるゝ處の事由りて其の事
_候中より其の苦候はるゝ事候に
_候

大正十一年

刑部省

事務

長官

事務

大正十一年
事務
長官

事務

事務

大正十一年
事務
長官

事務

大正十一年
事務
長官

事務

事務

事務

事務

事務

事務

事務

事務

事務

事務

日下

信子

七巻

信子

信子

信子

七巻

信子

信子

信子

信子

信子

信子

七巻

八月廿六日 大正九年八月廿六日 信子

信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子

信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子

信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子

信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子

信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子

信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子

信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子

信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子 信子

此後之世も全天下の人心を平しんば
脚能く道に立てて人々を治す所
るを善とし是れ其の徳也
るを善しんば其の徳也

日月の形を以て其の徳を以て
其の徳を以て其の徳を以て

此の世も全天下の人心を平しんば
脚能く道に立てて人々を治す所
るを善とし是れ其の徳也
るを善しんば其の徳也

此の世も全天下の人心を平しんば
脚能く道に立てて人々を治す所
るを善とし是れ其の徳也
るを善しんば其の徳也

此の世も全天下の人心を平しんば
脚能く道に立てて人々を治す所
るを善とし是れ其の徳也
るを善しんば其の徳也

りし事之取之... 入... 出...

りし事之取之... 入... 出...

りし事之取之... 入... 出...

Faint, illegible handwritten text in a cursive script, possibly Japanese or Chinese, covering the right page of the document. The text is arranged in several vertical columns.



